告はなかった。また発生部位とプラークの進展形式には一定の関連のあることを明らかにすることができた。本研究の成績から、プラークの発生部位については呼吸運動の大きい部位に好発するとの指摘があるが、進展についても呼吸運動との関連のあることが示唆された。

まとめ

平成15年度から導入されたヘリカルCTによるじん肺合併肺がんの診断は、スクリーニング検査法としては簡便さに難点があるばかりでなく読影に多大な時間を要し、さらにレントゲンの被暴量の観点からも問題がないとは言えない。また冒頭で述べたようにCTを用いた検診を行っても、一般人を対象とした肺がん検診の成績に比べて、じん肺例の肺がん検診の成績は十分な成果を上げていない。今回のTSの成績は、特に多彩な既存の陰影を有するじん肺のような症例の検診においては、その有効性を期待させるものであり、今後の研究の成果を期待したい。

胸壁3D表示法により、胸膜プラークの存在を容易に診断することが可能となった。この手法を用いてプラークの発生部位と進展形式との関連を検討した結果、胸壁の前壁に発生するプラークは上位肋骨に発生する頻度が高かった。側壁に発生するプラークは第4～第7肋骨部に発生する頻度が高く、横軸方向に進展した。一方後壁に発生するプラークは第7～第10肋骨部に発生する頻度が高く、縦軸方向に進展することが確認された。

本研究中「じん肺に合併する肺がんの早期診断法」は、独立行政法人労働者健康福祉機構の13分野研究における「じん肺に合併した肺がんのモデル診断法の研究・開発・普及」の一環として行われたものである。

文　献

1) 木村清延、中野郁夫、大塚義紀、他:労働者健康福祉機構13分野研究「粉じん等における呼吸器疾患」－現行のじん肺肺がんの診断法の有効性の研究－：日災会誌 57:147-151,2009
2) 本田広樹、木村清延、阿波加正弘、他:石綿疾患における胸膜プラークのCT画像を用いた3D表示の試み：日災会誌 55:49-54,2007
3) 本田広樹、木村清延、阿波加正弘、他:石綿胸膜プラークの発生部位ならびに進展様式に関する検討：日災会誌 56:6-12,2008

お知らせ　生涯教育用ビデオライブラリーの廃止について

－平成22年3月31日を以って貸し出し業務を終了いたします－

常任理事・学術部長　渡邉　直樹

昭和62年度より、会員の生涯教育を担うため本事業を開始してまいりました。

しかし、保管ビデオの劣化、制作版権に関わる購入制限や情報媒体の変化に伴い、ここ数年は大幅に貸し出しの需要が減少しております。そのため、**平成22年3月31日**を以って、本事業を廃止することといたしました。長い間、ご活用いただき、誠にありがとうございました。

なお、同様の貸し出し業務につきましては、下記団体でも行っておりますのでご案内いたします。

○日本医師会　（ビデオライブラリーは日医会員のみ閲覧可能）　http://www.med.or.jp/
○北海道産業保健推進センター（札幌市中央区北1条西7丁目プレスト1･7ビル2階　011-242-7701）
○北海道社会福祉協議会（札幌市中央区北2条西7丁目かでる2･7　011-241-3976）
○北海道健康づくり財団（札幌市中央区大通西6丁目　北海道医師会館5階　011-232-5500）

北海道医師会事業第三課
〒060-8627　札幌市中央区大通西6丁目
TEL 011-231-1726／FAX 011-252-3233
E-mail　jigyo3ka@m.doui.jp